

国立

国会

図書館

月報

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2022.3



日本図書館紀行 東京都立中央図書館

本の森を歩く 第28回

日本美術に魅せられた二人の英国人

国立国会図書館で働いています Season2

国立

国会

図書館

月報

NO. 731
MARCH 2022

CONTENTS

1 小公子―深く幼子を愛し、其恩を思ふ
今月の二冊 国立国会図書館の蔵書から

5 日本図書館紀行

東京都立中央図書館

10 本の森を歩く 第28回

日本美術に魅せられた二人の英国人

18 国立国会図書館で働いています Season2 no.6

22 IFLA年次大会

21 本屋にない本

『知らない地球がここにある』

23 館内スコープ

コンテンツもひとごとになります

24 NDL Topics



表紙：
Marigold garden, [1st ed.], pictures
and rhymes by Kate Greenaway
; printed in colours by Edmund
Evans, G. Routledge and sons,
[1885] 28cm [https://dl.ndl.go.jp/
info:ndljp/pid/3947837/21](https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/3947837/21)

『小公子』

—深く幼子を愛し、其恩を思ふ—

山崎優里亜



若松賤子

レースの飾りがついた黒い服を着ている主人公セドリック。思わず手に取りたくなるような可愛らしいイラストが表紙を飾る。

小公子

バルネット 著、若松賤子 (岩本嘉志子) 訳 博文館
明30 342p;23cm <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1168374>



セドリック (CEDRIC) という名前の車をご存じだろうか？ 日産自動車は昭和35 (1960) 年から平成16 (2004) 年まで販売した自動車だ。実はこの車名は、フランシス・ホジソン・バーネット (Frances Hodgson Burnett 1849 - 1924) の小説『Little Lord Fauntleroy』の主人公セドリックに由来している。世界中で愛され続ける物語の主人公のように、長く愛用されることが願われていたようだ。

『Little Lord Fauntleroy』は、祖父の跡継ぎとしてイギリスに呼び寄せられた主人公の純粹無垢な心が、祖父の頑なな心を次第に和らげていく物語だ。その翻訳「小公子」が日本の雑誌で発表されたのは、原作単行本発売から4年後の明治23 (1890) 年のことである。掲載誌は『女学雑誌』という明治18 (1885) 年創刊の女性啓蒙誌で、訳者は若松賤子^{しずこ}だった。明治24 (1891) 年には、連載の前半までをまとめた『小公子』が発行された (3ページ参照)。「女学雑誌」での連載は明治25 (1892) 年1月の第299号で完結し、さらに賤子は後半も単行本にまとめるつもりだった。しかし、明治29 (1896) 年に住居のあった明治女学校が火災に遭い、その際に原稿が焼失したという。以前から結核を患っていた賤子も、火災の直後に若くして

『小公子』のあらすじ

主人公セドリックは、イギリス人の父の死後、アメリカ人の母とニューヨークで暮らしていた。そんなある日、セドリックが祖父ドリンコート侯爵³の跡継ぎであると判明し、イギリスに呼び寄せられる。頑固でアメリカ嫌いな祖父は、セドリックを母親から引き離して育てようとするが、次第に少年の無邪気さに感化され、それまでの圧制家ぶりを改めていく。物語後半で、正統な後継者だと主張する別の母子が現れるが、ニューヨークに住む友人たちの協力で解決し、セドリックは正統な後継者だと証明される。さらに、侯爵がエロル夫人（セドリックの母）を素晴らしい女性だと認めたことで、セドリックは母親とともに城に住むこととなり、ハッピーエンドを迎えた。



本書で唯一の挿絵。セドリック親子と一緒に城で暮らすよう、侯爵が申し出る場面。

亡くなった。その翌年、櫻井鷗村の編集集で『女学雑誌』既載のものが1冊となり、博文館²から出版された。今回ご紹介するのは、この博文館の『小公子』である。

本書の構成を確認すると、①櫻井鷗村の「遺稿編纂の辞」及び「緒言」、②「前編自序」、③物語本文（第1回〜第15回）、④訳者の夫・巖本善治の後書き「小公子の後に書す」、⑤森田思軒などの著名人による批評、という順になっている。『小公子』と言えば、児童向け小説というイメージがあるが、本書は物語以外にも充実している。不思議にも思えるが、読んでみると、この構成が訳者の人物像を知る手掛かりとなるのが分かる。

若松賤子（本名、巖本嘉志子 1864・1896）は、会津藩士・松川勝次郎の長女として、元治元（1864）年に生まれた。戊辰戦争が始まると賤子は、会津藩の隠密だった父と離れ離れになった。その後、母と死別し、横浜の貿易商山城屋の番頭・大川甚兵衛に養女として引き取られ、アメリカ人女性宣教師メアリー・キダー（Mary Eddy Kidder）の塾で学び始める。山城屋の倒産により一時は横浜を離れ、東京で生活したが、キダーの塾が寄宿舎を備えたフェリス・セミナリー（現在のフェリス女学院）となった際に、キダーの下に戻った。彼女が「寝言も英語、情のこ

前編自序

母と共に野外に逍遙する幼子が、幹の屈曲が尋常ならぬ一本の立木に指さして、「ああさん、あの木は小さい時、誰かに踏まれたのですねい。」と申したとか。考へて見ますと、美事に發育すべきものを、素直に生ひ立つ筈のものを屈曲する程、無情などは實に稀で御座ります。心なき人こそ、幼子を目し、生ひ立ちて人となるまでは異に數に足らぬ無益の邪魔物の様に申しましたしやうが、幼子は世に生れたる其日とは言はず、其首父母がいつくよはと、待設ける時分から、はや自から天職を備へて居りました、決して不完全な嬌た物では御座りません。されば私どもが濁世の蓮花、家庭の天使とも推すべき彼の幼子の天職は、いとも輕からぬとて御座ります。然るに世の浪風はこれを屈曲らせ、心なき同胞は、あたら若木を踏みにし



メアリー・キダー
肖像の出版：山本秀煌
編『フエリス和英女学校
六十年史』フエリス和英
女学校 昭和6<請求記
号特 223-298>

幼くして実母と死別した賤子は、キダーを母のように慕い、学校を唯一の家庭(ホーム)として育った。その実体験から彼女は、子どもの教育の大切さを感じていたのだろう。子どもは「邪道に陥らうとする父の足をどめ、卑屈に流れ行く母の心に高潔の徳を思ひ起させる」という神聖なミッションを担う存在であり、そのホームの教導者(子ども)を「先づ教え導き、其(その)清素爛漫の容姿(すがた)を發揮させ、其(その)ミッションを完(まった)うさせる」ことが、両親はじめその同胞の務めであると、「前編自序」で述べている。親子を題材とした「Little Lord Fauntleroy」が、賤子にとって心惹かれる作品だったことは、想像に難くない。



明治24(1891)年に出版された、前編の『小公子』。明治30(1897)年の博文館版に比べ挿絵が多く、見た目にも楽しい。右は、ニューヨークを旅立つセドリックが友人からハンカチを受け取る場面。
[バアネット 著]、若松賤子(岩本嘉志子)訳『小公子』[明24]
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1168359>



「小公子」第1回が掲載されている『女学雑誌』表紙。連載は、明治23(1890)年8月第227号から明治25(1892)年1月第299号まで。
『女学雑誌』第227号
1890.8 女学雑誌社<請求記号 Z32-B232>

もる手紙も英語」と語られるほど語学に堪能だったのは、フエリス・セミナリーで高度な教育を受けることができたからだろう。

明治15(1882)年にその第1回卒業生として高等科を卒業した賤子は、母校の教員を務め、『女学雑誌』の編集人で明治女学校教頭の巖本善治と結婚した。結婚後は、バーネットの「セイラ、クルーの話」やイギリスの女流詩人プロクターの「忘れ形見」、同じくイギリスの詩人テニソンの「イナック、アーデン物語」などの翻訳作品を世に送り出した。

『小公子』は、冒頭の「セドリックには、誰も云ふて聞かせる人が有まぜんかつたから、何も知らないであつたのでした。」のように、「まぜんかつた」という打消し表現を用いた言文一致体特徴的だ。明治期の翻訳王・森田思軒は、原作をよく理解した忠実な翻訳である点と、平易・優美で自然な言文一致体である点で、『小公子』を高く評価した。親子に読み聞かせるような自然な語り口調の文章は、現代の読者にも読みやすいだろう。巖本善治の追想によると、賤子は翻訳について「女が半襟のうつりを考へてアレかコレかと思案する様に、又時々筆筒からソツト着物を出して見て、独りで楽しむ様に、色々の訳語を思出しては見て居ります」と話していたという。一字一句の選択に苦勞しながらも、楽

※引用の旧字は新字に、旧仮名づかいはいママとしました。

侯爵の如く、實情は、當の打撃の如くに本心を現れ、憤懣をまづ、冷たい目で
 うさへ見えて居りました。今、ハンケチを取出して、それを拭き、其冷笑はます
 く毒氣を帯びて、
 然るにかれは、も一人の女を憐れ居たのだ。あれ……あの子供のお後を、
 かれはあれさへ憐れ居たのだ。姓名を記す侯は美支のない方を憐んだが、
 これが其毒氣でも有らう。
 かういつて、突然椅子から跳ね上り、室内をあらゆる、こちらを歩み始め、猛烈
 な言葉が其口から湧出するかの様に發しました。憤懣を、憎悪を、非常な辱
 罵を、皆集めて、侯爵が水を置はすか如くに、老侯の一身を覆ひ被せました。老
 侯の心の風浪は見るも恐ろしい様でしたが、さうして、驕り立つて、最も恐ろし
 い時、彼の貴族の手に、彼の愛を忘れる椅子はなく、それを愛す支の體をも
 出されたかつたとは、ハルも氣がつかました。
 いや、さもあるらう、あいつら（小供たちの）は生れた其時から、かれの男爵
 であつたのだ。かれも、あいつらは大嫌で、あいつらもかれを憎んだのだ。其
 中ビーグリスは一番わるい奴で有つた。併し此事はまだ全く信用を置かぬから、
 こちらも充分探索し見してやらう。だが、考へて見ればビーグリスには有りさ
 うなとだなあ、さうもその性とは有つたのだらう。
 かういつて又憤懣し、驕りに其婦人のと、又珍物物となせに付て愛に辱めし、
 室内をあらゆる歩みながら憤懣の情を押しやうとして、顔色は青くやつ
 たり、蒼色になつたりしました。然し一部始終を聞き終つて、そして、さういふ
 になる前水を了知しました時、ハルも老侯の爲に氣遣つて、か顔を見た位でした。
 此時は最早顔色は、丸で青さめて、落膽する様子でした。老侯は憤懣を發し五
 分度下、多少身に疲勞を覺えられましたが、此度は又美支の憤懣でなく、他の憤
 が加はりましたから、尙さらがツから弱られたのでした。

驕りに長椅子の側に歸り、立ちながら、俯いよらぬいた極な、かす／＼した聲で、
 たゞ人が思ふかれに子供を愛するまゝ有らうなぞ申しては、容赦に
 信じる處ではなかつたが、かれは老侯の憤懣は、中にも自分のは思つ
 たが、かれは此子式は誠に可愛く思ふのだ。あれも亦よく聞いて居るのだ。（て
 いつて若くしいといふは、口元に見せ）かれは、人望はないのだ。初めか
 ら人望はないのだが、此子式はかれが好だ。かれは誰よりもせす、いつもかれ
 を信じて居るのだ。それで此子は、かれよりも立派な公主になつて、來名の尊
 を擧げるとなるであらうと、承知して居るのだ。
 此時を思ふて、可愛い童顔を見詰め、彼のふさ／＼した眉を恐ろしく眺められ
 ましたが、少しも容赦に思ひ所は有まじかつた。それから手でも子供の顔から、
 さら／＼した皮を剥き除け、顔で、振りかいて呼吸を鳴らされた。彼の火解
 を、お仕がが君によつて立現れました時、老侯は長椅子を離れ、
 それへといつて、少し調子を極へ、ポイントトワイを扉に連れて來れ。

第10回より抜粋。祖父を良い人だと信じる純真なセドリック
 と過ごすうちに、侯爵はセドリックを愛するようになって
 いた。可愛い孫が正統な跡継ぎではない可能性があるかと聞いた
 侯爵は、エロル夫人を息子の結婚相手と認めようとしなかつ
 た自分への報いだと悔やむ。

- 1 アメリカの児童雑誌『セント・ニコラス』で1885年に発表され、翌年に単行本としてニューヨークとロンドンで出版された。
- 2 明治中期～昭和中期の出版社。総合雑誌『太陽』や『少年世界』などを創刊。
- 3 marquisは侯爵、earlは伯爵であるが、賤子はこの2つを逆に訳している。現代の翻訳では、「伯爵」と訳されている。
- 4 「解説」『若松賤子集』富山房 昭13 p.2<請求記号751-47>
- 5 「後序」『小公子(岩波文庫)』22刷 バアネット 著、若松賤子 訳 岩波書店 1953 p.256<請求記号933-cB96s-W>

○参考文献

廣野幸一 著『明治の女学「巖本善治・若松賤子夫妻」』岩波ブックセンター 2010<請求記号 GK66-J34>
 尾崎のみ 著『若松賤子 黎明期を駆け抜けた女性』港の人 2007<請求記号 KG631-H12>
 児童文学翻訳大事典編集委員会 編『図説児童文学翻訳大事典 第1巻』大空社 2007<請求記号 KE177-H39>
 山本紀久子「若松賤子の翻訳業績 翻訳・翻案・創作作品の考察」『日本女子大学大学院人間社会研究科紀要』(12) 2006.3<請求記号 Z22-B139>
 川戸道昭、榊原貴教 編『明治の児童文学 翻訳編 第3巻(バーネット集)復刻版』五月書房 1999<請求記号 Y9-M99-153>
 山本正秀「若松賤子の翻訳小説言文一致文の史的意義」『専修国文』(通号14) 1973.9<請求記号 Z13-544>
 近代女性文化史研究会 編『婦人雑誌の夜明け 新装普及版』大空社 2016<請求記号 UM84-L42>
 車名の由来 日産自動車株式会社ホームページ
<https://www.nissan-global.com/JP/COMPANY/LIBRARY/CARNAME/>
 ※URLの最終アクセス日:令和3年11月16日

しみながら翻訳していた姿が想像できる。
 彼女の表現力は、物語中の様々な場面で感
 じられる。特に「第十回」では、上画像のよ
 うに、主人公が正統な後継者ではないかもし
 れないと知ったときの祖父の動揺ぶりが、豊
 かな表現で書かれている。主人公と出会っ
 たら、祖父の心に大きな変化があったことが
 伝わってくる、印象的な場面だ。
 明治以降も『小公子』は、多くの人々に親
 しまれ続けている。昭和2(1927)年には
 岩波文庫に収録され、昭和63(1988)年
 には「小公子セディ」の題名でテレビアニメと
 なった。
 『小公子』をもう一度、今度は訳者に注目
 しながらか読んでみるのはいかがだろうか？



白壁の外観。地上5階建てで、書庫は地下4層（地下2階）まであります。
東京都立図書館ホームページから転載（以下「」印）。

東京都立中央図書館

夏目 雅之

大使館が多く置かれ、閑静な住宅街が広がる港区・南麻布で、住民の憩いの場となっている有栖川宮記念公園。明治29（1896）年に有栖川宮威仁親王の御用地となったこの地は、その後高松宮家、東京市へと受け継がれ、現在は区立公園となっています。溪谷や池など豊かな自然が広がるこの公園の高台にあるのが、東京都立中央図書館（以下、都立中央図書館）です。

都立中央図書館は、明治41（1908）年に開館した東京市立日比谷図書館をルーツとし、昭和48（1973）年にその蔵書を引き継いで開館しました。ルーツである日比谷図書館は平成21（2009）年に千代田区に移管され、東京都立図書館（以下、都立図書館）は現在は、都立中央図書館と国分寺市にある都立多摩図書館との2館で構成されています。

都立中央図書館の蔵書数は公立図書館では全国でも最大級の210万冊以上であり、個人利用者への貸出はしていませんが、都内公立図書館への貸出等を通じ、利用者への調査研究のため、都内の公立図書館のために様々なサービスを提供しています。



A 有栖川宮記念公園。
B 園内案内図。図書館は高台にあります。
C 1F中央ホール。ご質問は中央の総合カウンターで受け付けます*。

私は令和3年4月から、実務研修員として国立国会図書館から都立中央図書館に派遣されています。都立中央図書館は総務や企画、図書館への協力支援などを担当する管理部と、利用者サービスや資料収集を担当するサービス部で構成されており、私はサービス部情報サービス課の都市・東京情報担当に所属しています。都市・東京情報担当の業務には、主に以下のものがあります。

まず、東京関係のレファレンスです。メールや文書、フォームで寄せられた質問は、内容に応じて各担当に割り振られ、そのうち東京に関するものを都市・東京情報担当が調査しています。国立国会図書館ではレファレンス経験がなく全くの初心者だったため、「〇〇の近くにこんなお店があったはず。」「××市にある碑はいつ誰が建てた?」「□□区のある計画が始まった経緯は?」など、地域やジャンルを問わず寄せられる質問にまだまだ悪戦苦闘していますが、お求めの情報をご提供できた時や、以前のレファレンスで得た知識を次の調査に活かした時は自

分の成長も実感でき、強くやりがいを感じられる業務です(行き詰まったときは、たまに自分のレファレンスにいただいたお礼状を見返して元気を出します)。

次に、東京関係の資料収集です。通常の選書は資料の収集担当である資料管理課が行っていますが、東京に関する資料については、都市・東京情報担当が選書を行っています。東京都庁各部署や各自自治体が発行する事業概要や調査報告書といった行政資料が多いですが、都内の最新グルメや観光スポットが掲載された本もいち早くチェックできるといふ楽しみもあります。

なお、東京に関する資料でも、江戸の浮世絵や絵図などの資料は、都市・東京情報担当ではなく特別文庫担当が所管しています。両担当が管理している当館のデジタルアーカイブ「TOKYOアーカイブ」では、国指定重要文化財の「江戸城造営関係資料(甲良家伝来)」(次ページ画像F)などを公開していますので、ぜひご覧ください。

そして、政策立案支援サービスの窓口も挙げられます。政策立案支援サ-



D リニューアル前の1F展示コーナー*。
E 1F 都市・東京情報コーナー。東京のことを調べたい時はまずこちらへ！
F 「江戸城造営関係資料（甲良家伝来）」より「江戸御城総絵図」。TO KYOアーカイブでご覧になれます。
<https://archive.library.metro.tokyo.lg.jp/da/detail?title=0000000002-00006375>



G 担当したミニ展示では、マスコットキャラが誕生10周年を迎えた都電をピックアップ。
H 都内公立図書館向けのレファレンス研修では講師も担当しました。

ビスとは、東京都庁各部署の職員からの依頼に応じ、政策立案に必要な資料紹介や調査を行うサービスで、いわば行政職員向けのレファレンスサービスのようなものです。このサービスでは資料の貸出も行っています。基本的には通常のレファレンスサービスと同様、内容に応じて各担当の職員が調査を行います。 「明日までに」といった急ぎの依頼の場合は、都市・東京情報担当の職員総出で調査することもあります。

実務研修中のこの1年、恐らく全国の図書館でもそうかと思いますが、都立図書館は、新型コロナウイルス感染症への対応に追われていました。私が赴任した昨年4月1日は、一昨年末から休止していた来館サービスが再開されたまさにその日であり、初日から館内が非常に慌ただしかったのを覚えています。しかし、再開も束の間、4月25日からは緊急事態宣言の発令を受けて来館サービスは再び休止となってしまいました。その後、6月1日以降は制限付きながら来館サービスを継続することができています。



I 4F 作業スペースは仮電話センターとして使用。工事休館に関するお問い合わせや電話での調査依頼に対応しました。

J 工事用の資材でいっぱい1F中央ホール。

K 資料の保護のため閲覧室も棚や閲覧机にカバーがかけられた状態に。

都立図書館は、もちろん公立図書館としては全国でも最大規模ではあるのですが、国立国会図書館にいた時と比べて、「今後図書館はどうなるのか」「図書館には行けないがなんとか急ぎで資料が欲しい」という利用者の声により直接私たち職員の耳に届くように感じられました。感染対策との狭間で、どのサービスをどこまで提供できるか検討する姿勢を、サービスの最前線で学ぶことができたのは、実務研修に来たからこそ得られた貴重な経験です。

最近実施した館内の一部リニューアルについてもご紹介したいと思います。都立中央図書館は、昨年11月11日から今年1月6日まで、特別整理（蔵書点検等）と古くなった空調、照明の更新工事等のため来館サービスを休止していました（非来館サービスは継続）。コロナが落ちてきたところでの再休止となり利用者の皆様には申し訳ない限りでしたが、再開時に「都立図書館よくなったじゃないか！」と言っていただけのように、準備を進めてきました。

大きく変わった1点目は、1階展示

コーナーの再編成です。これまでは東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を紹介する「オリンピック・パラリンピック」、江戸・東京の伝統や文化を紹介する「伝統・文化」、そして日本について書かれた洋書（英語、仏語、独語など）を紹介する「Books on Japan」の3つで構成されていましたが、これらを、「Books on Japan」を引き継ぎつつ発展させる形で「話題の洋書コーナー」に一本化しました。新着洋書などを集約することで、利用促進を図っています。

2点目は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のアーカイブ資産展示です。1階都市・東京情報コーナーの資料の配置換えを行い、大会の関連用品や文書を展示するスペースを新設しました。現在は聖火リレーのトーチ、ボランティアのユニフォーム、実際に使用された競技用具などを展示しています。

これらのリニューアルもそうですが、都立図書館では若手の職員が多くの業務で中心的な役割を果たしているのも印象的でした。国立国会図書館と



L,M 話題の洋書コーナーには手書きの看板を設置。看板の裏面にはコーナーに置いてある資料の案内が。

N 壁面には都立図書館の国際交流を紹介する資料や特別文庫室所蔵の外国に関する資料を展示しています。



O,P オリンパのアーカイブ資産展示コーナー。聖火リレー用トーチや、日本が金メダルを獲得した野球やソフトボールの決勝戦で実際に使用されたボールなど、貴重な物品を展示しています。



5F 眺めの良いグリーンビューシート*。

は年齢ごとの人数比も違い、一概に比較することはできませんが、若手が積極的に意見を出し、実現に向けて動く、そんな、自分と同世代の職員が活躍する姿には、とても刺激を受けています。

実務研修も、あつという間にもう1年間が過ぎようとしています。国立国会図書館では未経験だった業務が多く、何から何まで教えていただければかりではありますが、残りの期間も少しでも都立図書館のお役に立てるよう力を尽くし、ここで得たご縁と経験を大切に国立国会図書館に戻りたいと考えています。

日本美術に魅せられた 二人の英国人

瀧澤 和子

英国でジャポニズムが一世を風靡した時代に、2人の英国人、外科医アンダーソンとジャーナリスト兼小説家モリソンが出版した日本美術書を紹介する。2人はそれぞれ本業を持ち、本業でも趣味の日本美術でも名を残している。



第2回ロンドン万博、オールコック収集の日本製品の展示の様子。

The Illustrated London News Reprint Ed, 1862.9.20, Originally published by William Little in London, Kashiwashobo Pub. Co., 1997<請求記号 Z99-973>

はじめに

日本美術は鎖国のため長らく海外に知られていなかったが、1862年の第2回ロンドン万博でロンドン子達から発見されることになった。日本では文久2年、幕末である。初代駐日イギリス公使として徳川幕府と英国との交渉を担ったオールコック卿が、日本各地で熱心に収集した工芸品（漆器、陶磁器、刀剣など）から日用品に至るまで、約600点の品々を出品した^①。根付や陶磁器などを中心に、英国で日本美術への関心が高まった^②。英国の工芸作家が日本の要素を取り入れた家具をデザインするように^③、日本の工芸品を輸入販売する骨董店もロンドンに登場した。女性の肖像画などに屏風や団扇などが描かれるようにもなった^④。1880年代末にはこうした日本趣味、すなわちジャポニズムは最

高潮に達し、中流階級の間で、百貨店で室内装飾用に日本の工芸品を購入することがブームとなった一方、今回紹介するアンダーソンとモリソンなど、コレクターの間で、日本美術を学術的に探求しようとする動きが起こったのだ^⑤。

ウィリアム・アンダーソン

アンダーソンは、ロンドンの聖トーマス病院で外科研修医兼解剖学実験授業の助手として働いていた。1873年から、明治政府の命により、若い軍医と学生に医学を教えるために海軍に勤務し、日本で約6年間をいわゆる「お雇い外国人」として過ごした^⑥。

若いころ医学が芸術かで迷い、美術学校で学んだ経験を持つ。スケッチを得意としていたため、解剖学を教える際に描いた図は、生徒や同僚

WILLIAM EDWIN ANDERSON

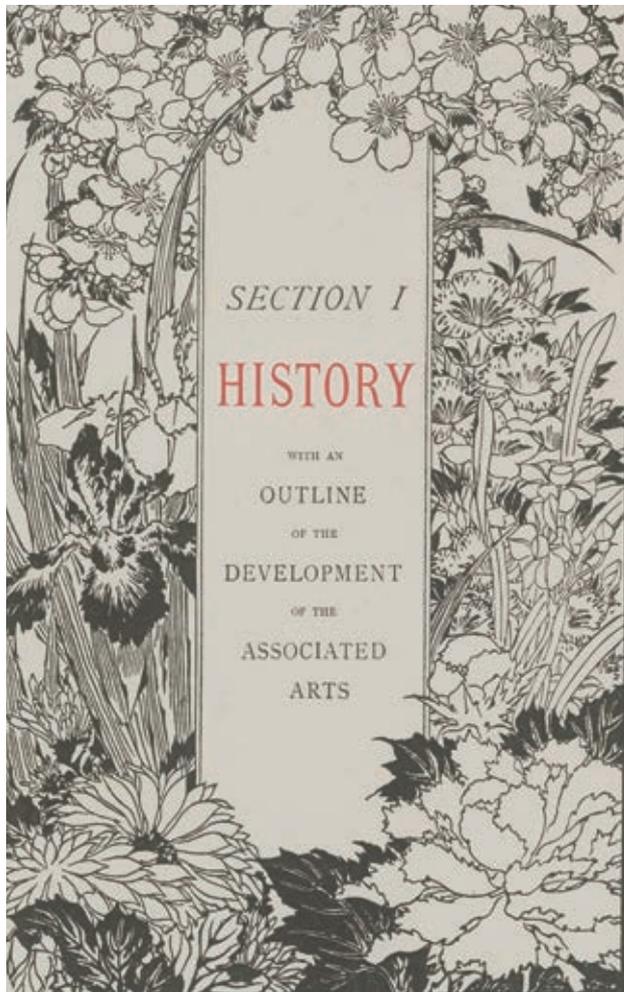


ウィリアム・アンダーソン
(William Edwin Anderson, 1842-1900)
※肖像の出典は 17 ページ (以下同)。



(上) 当館に所蔵されているのは、アンダーソンの署名と通し番号の入った献呈本。

(右) 第1部の表紙には、ビングの『芸術の日本』創刊号と同じ図版が使用されている。



William Anderson, *The pictorial arts of Japan. With a brief historical sketch of the associated arts, and some remarks upon the pictorial art of the Chinese and Koreans*, L. Lowe, Marston, Searle, and Rivington, 1886< 請求記号 Sd-51>



紙も厚く、相当な重量に。

達から評判だったという⁽¹⁾。最終的に医学の道を選んだが、日本滞在中に日本美術に魅せられた⁽⁸⁾。来日にあたり、西洋の版画やエッチングを持参したのだが、それらを火災で焼失してしまい、その埋め合わせもあって日本の美術品収集に熱中していった⁽⁹⁾。

30代の新進気鋭の医師として働いたから、同時期に若手外交官として来日していたアーネスト・サトウなど同時代の日本通の西洋人たちのネットワークも利用して、日本滞在中に3,000点以上に及ぶ絵画作品を収集した⁽¹⁰⁾。そのうち3分の2は「まくり」と呼ばれる表装されていない作品で、骨董店などで安価に購入したと思われる。

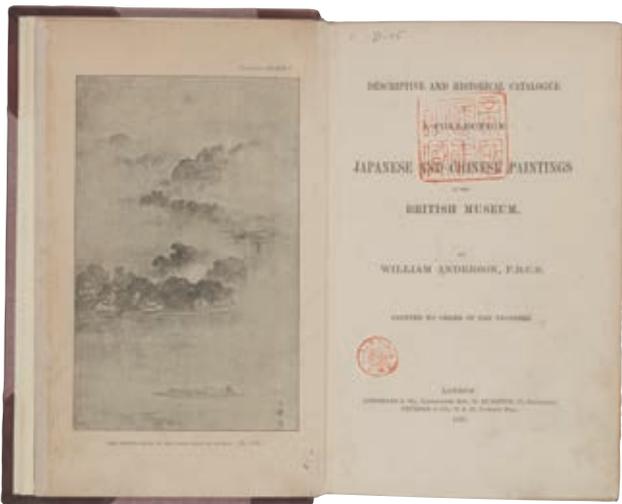
英国帰国後の1881年、コレクションのほとんどを3,000ポンドで大英博物館に売却した⁽¹¹⁾。彼の日本絵画コレクションが、同館の日本美術コレクションの基礎を築くこととなった⁽¹²⁾。

アンダーソンは *The Pictorial Arts of Japan* を1886年に刊行した。先史時代から江戸時代までの日本美



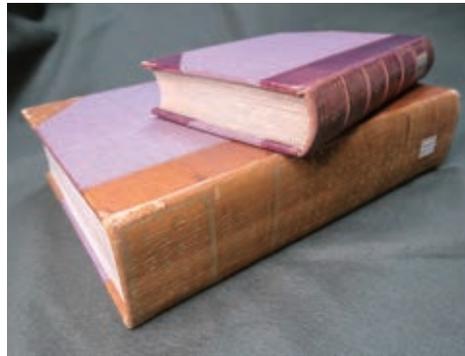
アーネスト・サトウ
(Ernest Mason Satow, 1843-1929)

19歳の若き通訳官として英国から来日。日英の外交関係に貢献した。日本研究者としての著作も多数ある。和漢書の卓越した収集家でもあったサトウは、資料の入手や読解の面でアンダーソンを助けた。サトウとアンダーソンが共著で *The pictorial arts of Japan* を出版する計画もあった¹³。



William Anderson, *Descriptive and historical catalogue of a collection of Japanese and Chinese paintings in the British Museum*, Longmans & Co. [etc.], 1886< 請求記号 D-25>

The pictorial arts of Japan と対で出版されたカタログ(目録)で約3,500点の作品の基本情報(題名、作者名、流派、制作年等)が掲載され、一部作品には詳しい解説(次頁画像参照)も付されている。右画像は2冊を重ねたもの。



術の通史、技法や特徴などを解説した、約300頁、縦40cmもある豪華な革装本で、80枚の図版が収録されている。

作品を大英博物館に売却するにあたって、作品のカタログ(目録)を作成し、日本美術の流派や歴史等について解説を加えることが買取り条件の一つだったと思われる。カタログの解説部分が大部に及んだので、カタログから解説を切り離して、解説だけを独立した1冊の研究書として刊行することになったのが本書である。アンダーソン自身のコレクションだけでなく、同時代に来日した医師や、著名なフランスの日本美術コレクターの収蔵品の図版も収録されている⁽¹⁴⁾。

あらゆる分野の絵画を収集していることが彼の特徴で、狩野派の絵画が若千多く、室町時代の水墨画、文人画から京都の円山四条派で、江戸時代の作品はほぼ偏りなく博物学的に集めている。

しかし、日本美術の概念が確立し

ていなかった当時の日本では、画論書や画人伝などはあっても日本美術全体について述べた書籍は存在しなかったため、本書とカタログは大変貴重なものだが、アンダーソンの英国帰国後の出版であったこと、翻訳書が1896年に刊行されていること⁽¹⁵⁾、さらにパリ万博向けに日本政府が編纂したいわば公的な日本美術史解説書『稿本日本帝国美術略史』⁽¹⁶⁾が同時期に刊行されたため、日本では忘れられてしまった⁽¹⁶⁾。

英オックスフォード大学でアンダーソンコレクションを研究した三笠宮彬子女王は、「彼にとつて、集められた作品は日本美術を体系化して理解するための標本であった。」と分析している。アンダーソンのこうした収集方法は、英国に持ち帰るための「日本美術の代表的サンプル集」⁽¹⁷⁾を作り上げることが目的だった⁽¹⁸⁾。自分の好みを越えて、一時代の全体像を切り取るような学術的な眼で収集にあたっていたのだ⁽²⁰⁾。

※引用の旧字は新字に、旧仮名づかいはママとしました。



2275. Kakémono, on silk, painted in colours. Size, 56½ × 33½.
Flying cranes.

The two birds, swooping gracefully through the air, are skilfully foreshortened, and drawn with a delicacy and decision of touch characteristic of the works of the artist. The lower half of the picture is left blank to convey an idea of the height at which the storks are poised. The conventional red sun is introduced partly in conformity with a time-honoured association of ideas, and partly for purposes of decorative effect.

The effect of the feathery surface is obtained by a thin "glazing" of white.

Painted by Momi Iriō. Signed Iriō. Seal. Nineteenth century.

The pictorial arts of Japan に掲載されている多数の図版のうち、Plate 62 の鶴の絵は四条派の流れをくむ画家森一鳳（もり いっぼう）の作。カタログでは「作品番号 2275」として解説が付与されている（上画像）。アンダーソンの解説によれば、本作は、飛翔する鳥の高さを示すため、画面の下半分が空白として残されているとのこと。

～医師としての著作～



ウィリアム・アンデルソン 著、豊住秀堅 訳『脚気病説（安氏）』山中市兵衛 明 12 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/834752> (モノクロ画像)

脚気はヨーロッパには見られなかったためアンダーソンにとっては未知の病だったが、来日中は4年間で1,000人を超える脚気患者を診察し、軍医らへ講演した内容を1878年に論文としてまとめた²³。同年、和訳されたのが本書である。彼は自分の母校である聖トーマス病院医学校に海軍軍医高木兼寛を推薦して留学させ、高木が海軍の脚気撲滅の糸口を掴むきっかけをつくった²⁴。



Fig. 75. English drawing, from an engraving after Nishigata Saburoda in the *Edo-dera* gallery (1796).

CHAPTER II.

COLOURS.



THE following is a fairly complete list of the colours prepared from native or Chinese materials, before the intercourse of the Japanese with European traders had led to any important change in the technique of painting. At the present day European pigments are largely imported, and to a great extent replace the native and Chinese materials.

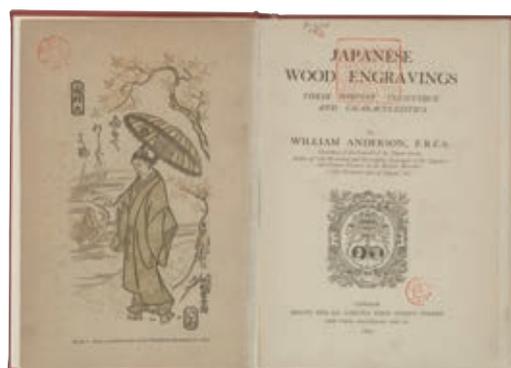
Specimens of most of the pigments now enumerated have been prepared from trustworthy sources, and, through the kindness of Professor Divers, F.R.S., Principal of the Imperial College of Engineering in Tokio, have been submitted to a careful analysis.

Specimens of the pigments of various colours obtained in the usual way.

アンダーソンは膨大な和漢書のコレクター²¹でもあったため、*The pictorial arts of Japan* にも江戸時代の画譜、画史、絵本などの挿絵が多数使用されている。例えば、第2章の冒頭には、西川祐信（すけのぶ）による『絵本玉かづら』の中から、女性たちが屋内でいたずら描きにいそむ様子を描いた絵が掲載されている。

カタログには、約70点の日本語の参考文献が掲載されており、著名な和漢書が多く含まれている。

彼の蔵書のうち1,900冊近くが大英博物館に売却され、1973年に同館から図書部門が独立して大英図書館となり、移管された結果、現在、旧蔵書は両館に分蔵されているという²²。



William Anderson, *Japanese wood engravings: their history, technique and characteristics*, Seeley, Macmillan, 1895< 請求記号 B-264 >

日本における木版画の歴史を、版画の誕生から全6期に分けて、各時期の代表的絵師、作品、技法などを詳細に解説した書。左ページは、浮世絵師西村重長の色刷り版画より。

ARTHUR GEORGE MORRISON



アーサー・モリソン
(Arthur George Morrison,
1863-1945)



山中商会ロンドン支店の外観。

『山中定次郎伝』故山中定次郎翁伝編纂会 編集・
発行 昭14 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1258420/100>



下村 観山 (1873-1930)

明治から昭和前期の日本画家。1903年2月、
文部省の留学生として渡英した際、大英博物
館に通った。モリソンと知り合い、共に同館の
版画素描部門の勉強室に入室した記録もある²⁵。
モリソンは、英語がほとんどできなかった
観山の面倒を見た²⁶。

アーサー・モリソン

英国のジャーナリスト兼小説家
で、戯曲も書いた。ロンドンのイー
ストエンドに住む貧困層の生活を
ありのままに描いた小説で名を成し
た。

また、シャーロック・ホームズの
大人気にあやかって、探偵マーチン・
ヒューイットが登場する短編ミステ
リを *Strand Magazine* でホームズ休
載中に連載し、好評を博した。日本
美術の知識を活かして、名刀正宗や
八幡大菩薩が物語のカギとなる短編
「日本古美術収集家殺し」も発表し
た²⁷。日本では大正時代に既に紹介さ
れ、その後も一部がミステリの選集
に収録されてきたが、昨年には完全
版も刊行された²⁸。

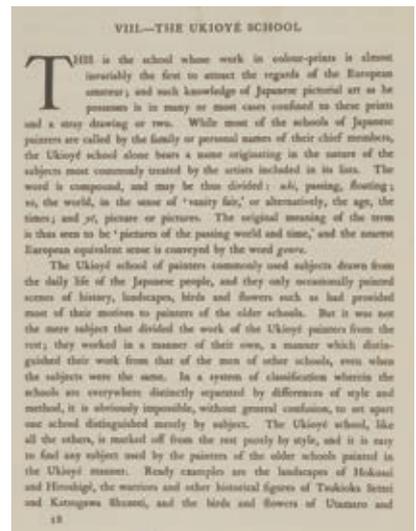
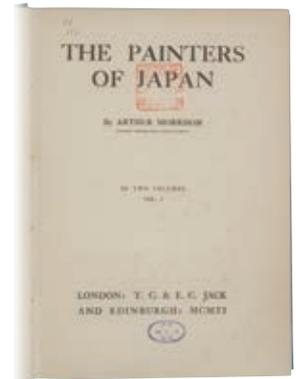
イーストエンドに潜入する際には
格闘技を習って暴漢の襲撃に備えた
というから、モリソン自身がまるで
ホームズのような超人だ。早くに文
壇から引退して、200点にのぼる
名画に囲まれてバッキンガムシャー
州の田舎で優雅な隠居生活を送り、
82歳で生涯を終えた²⁹。

アンダーソンとは異なって終生来

日経験はなく、ロンドンで浮世絵版
画と日本絵画のコレクションを築い
た。小説家として名を成す前は、イー
ストエンドにほど近いドックに入港
する船を待ち構え、日本帰りの船員
たちから浮世絵を安価に購入してい
たとされる。浮世絵にとどまらず日
本絵画全般の本格的な収集を始めて
からは、東洋美術商である山中商会
などの専門の美術商からも多く購入
している³⁰。また幼なじみの外交官で
来日経験のあるハロルド・パーレッ
ト (Harold George Parlett) を通じ
て入手したものも多いようだ³¹。

ロンドン留学中の日本画家の下村
観山^{かんざん}とも交流し、日本画の技術の実
演をしてもらうなどして知識を深め
た。

1913年には、篤志家がモリソ
ンから購入した589点の日本絵画
と33点の中国絵画が大英博物館に寄
贈され、同館学芸員ローレンス・ビ
ニヨン (Robert Laurence Binyon) は、
このコレクションの日本絵画はヨー
ロッパ最良のものと報告している³²。



Arthur Morrison, *The painters of Japan*, T.C. & E.C. Jack, 1911<請求記号 Sd-156>

下巻にカラーで掲載されている浮世絵作品の一部。

(右) 歌川豊広 (1773-1828) 「GIRL WITH SAMISEN (三味線を持つ娘)」。豊広は江戸後期の浮世絵師で、広重の師として知られる。歌川豊春に学び、豊国としばしば並び称された。
(左) 葛飾北斎 (1760-1849) 「流水に鴨図」。左下に「齢八十八卅」のサインがあるとおり、晩年の肉筆画で、高齢になっても北斎の筆の冴えが衰えていないことを示す好例といえよう。

(上) 標題紙。

(下) 下巻より浮世絵派の解説。

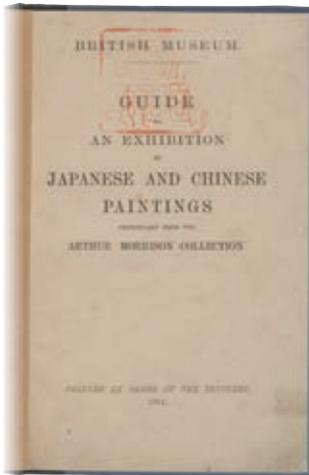
1911年刊行の *The painters of Japan* は、モリソンの日本絵画研究の集大成である。流派ごとの画風、中心となる画家の経歴や代表的作品などを詳細に記述した研究書で、上巻は土佐派、狩野派などを解説。アーダーソンは古い時代の浮世絵にはさほど興味を示さなかったが、モリソンはそうではない。本書の下巻では、浮世絵の創始者とされることもある岩佐又兵衛にはじまり、ページの大半を割いて、浮世絵の流派や絵師を紹介した。その下巻の一部を翻訳、増補して『日本の浮世絵師』を出版した山名格蔵は、稀覯本に属する高価な世界的大著として本書を紹介している。⁽³⁾⁽⁴⁾

なおモリソンの日本絵画研究の基礎になったのは、彼が収集した浮世絵や日本絵画コレクションのほか、大英博物館やヴェイクトリア・アルバート博物館の日本美術コレクション、『審美大観』や『國華』などの日本の美術出版物、『万宝全書』、『本朝画史』、『浮世絵類考』などの和書である。



Arthur Morrison, *Exhibition of Japanese prints : illustrated catalogue, with notes and an introduction*, Fine Art Society, 1909<請求記号 Ba-298>

1880年代末には、ロンドンで日本美術関連の展覧会が複数回開催された³⁵。本書はロンドンのギャラリー、ファイン・アーツ・ソサエティーで開催された展覧会にモリソンが貸与した作品のカタログである。口絵の作品は、江戸中期の浮世絵師、奥村政信による。奥村は丹鳥斎、文角、芳月堂など多くの号を名乗り、本作には「芳月堂丹鳥斎奥村文角政信画」と長い署名がある。



Guide to an exhibition of Japanese & Chinese paintings principally from the Arthur Morrison collection, Printed by order of the Trustees, 1914<請求記号 182-317>

大英博物館に収蔵されたモリソンの日本・中国美術作品の展示を紹介する小冊子で、同館学芸員のビニヨンが序文を寄せている。左下画像は、当時の日本美術展示の様子。インドや中国美術も同じ部屋に飾られていることが分かる。



モリソンは、作家として有名になる以前から大英博物館の図書館の入館証を入手していた⁽³⁶⁾。その後、大英博物館でアンダーソンのコレクションのカタログの訂正補注などに携わった古筆了任と知り合い、秘書として手当を出すなどして日本の出版物を研究しており、アンダーソンの著書も読み込んでいた。英国における日本美術研究者たちを結びつけた場の一つは、大英博物館だったといえるかもしれない。

1990年に行われた「大英博物館秘蔵「江戸美術展」」⁽³⁷⁾では、アンダーソンとモリソンの寄贈した日本絵画が多数出展され、東京に「里帰り」を果たした。アンダーソンとモリソンの二人は、本業でも業績を残しつつ、遠い島国、日本の美術を研究して大著を残し、現代人の目を楽ませてくれる。人生100年といわれる現代を生きる私たちにとって、彼らの生き方は示唆に富んでいる。キャリアを築きながら趣味の道も究める秘訣は、専門家との一期一会を大事にすること、本に親しむこと、そして図書館に通い詰めること、と結論付けて筆をおこう。

大英博物館のリーディングルーム(閲覧室)。

The Queen's London: a pictorial and descriptive record of the streets, buildings, parks, and scenery of the great metropolis in the fifty-ninth year of the reign of her majesty Queen Victoria, Cassell & Company, 1899<請求記号 Sf-9>



- 1 楠元町子「1862年第2回ロンドン万国博覧会における「日本」『愛知淑徳大学論集 文学部・文学研究科篇』(40) 2015 pp.58-60<請求記号 Z22-1017>; オールコック 著、山口光朔 訳『大君の都 幕末日本滞在記 下』岩波書店 1962 p.202<請求記号 210.58-cA35o2-Y>
- 2 松村昌家 著『大英帝国博覧会の歴史 ロンドン・マンチェスター二都物語』ミネルヴァ書房 2014 pp.189-195<請求記号 D7-L28>
- 3 宮崎克己 著『ジャポニスム 流行としての「日本」』講談社 2018 pp.62-64<請求記号 K71-M1>
- 4 小野文子 著『美の交流 イギリスのジャポニスム』技報堂出版 2008 p.13, p.24<請求記号 K181-J13>
- 5 桑和沙「バーリントン・ファイン・アーツ・クラブとジャポニスム 19世紀末イギリスにおける浮世絵版画受容についての一考察」『実践女子大学美術美術学』(34) 2020.3 p.35<請求記号 Z11-1604>
- 6 杉子女王「ウィリアム・アンダーソン・コレクション再考」『お茶の水女子大学比較日本学センター研究年報』(4) 2008.3 p.123<請求記号 Z71-N323>
- 7 長門谷洋二「本邦海軍軍医教育の基礎を築いた2人の英人医師 アンダーソンとホイーラー」『臨床科学』22(2) 1986.2 pp.239-245<請求記号 Z19-293>; ジョン・Z. パワース 著、金久卓也、鹿島友義 訳『日本における西洋医学の先駆者たち』慶應義塾大学出版会 1998 p.312<請求記号 SC28-G34>
- 8「北斎と英国の知られざる5つの物語 - 大英博物館の北斎展「Hokusai: beyond the Great Wave」」2017.5.4 英国ニュースダイジェストウェブサイト <<http://www.news-digest.co.uk/news/features/16335-hokusai-beyond-the-great-wave.html>>
- 9 小山騰 著『アーネスト・サトウと蔵書の行方 『増補浮世絵類考』の来歴をめぐって』勉誠出版 2020 p.339<請求記号 KC172-M31>
- 10 前掲、注9『アーネスト・サトウと蔵書の行方 『増補浮世絵類考』の来歴をめぐって』p.53
- 11 杉子女王「標本から美術へ 十九世紀の日本美術品蒐集、特にアンダーソン・コレクションの意義について」『國華』114(7)(1360) 2009.2 p.28<請求記号 Z11-165>
- 12 前掲、注6「ウィリアム・アンダーソン・コレクション再考」p.124
- 13 前掲、注9『アーネスト・サトウと蔵書の行方 『増補浮世絵類考』の来歴をめぐって』p.44, p.48, p.336, p.369; 村角紀子「19世紀末における〈日本美術史〉資料収集のネットワーク ウィリアム・アンダーソン旧蔵和漢籍を中心に」『鹿島美術財団年報』(27)(別冊) 2009年度版 p.226<請求記号 Z11-1895>; 遠藤望「大英博物館所蔵アンダーソン・コレクション調査報告」『ジャポネズリー研究会会報』12(1992) p.22 注3<請求記号 Z11-1596>
- 14 前掲、注9『アーネスト・サトウと蔵書の行方 『増補浮世絵類考』の来歴をめぐって』pp.343-344; 前掲、注13「大英博物館所蔵アンダーソン・コレクション調査報告」pp.11-45
- 15 杉子女王「特別講演 英国人医師に教えられた日本美術史—ウィリアム・アンダーソンと大英博物館の日本美術コレクション—」『第81回日本消化器内視鏡学会総会』Vol.53(Suppl.1) 2011 p.1 https://www.jstage.jst.go.jp/article/gee/53/Supplement1/53_578/_pdf/-char/ja
- 16 アンデルソン 著、末松謙澄 訳輔『日本美術全書』八尾書店 明29, 30(応用門) <https://d.nld.go.jp/info:ndljp/pid/849680> (浴革新門) <https://d.nld.go.jp/info:ndljp/pid/849679>
- 17 帝國博物館 編『稿本日本帝國美術略史』農商務省 明治34 [1901] <https://d.nld.go.jp/info:ndljp/pid/2542705>
- 18 翻訳書が10年後に出版された際に、当時の読売新聞の書評では古代を扱った章の記述の正確性が辛辣に批判されたものの、中世以降の章や外国人がこのような日本美術観を打ち出したことは評価された。『読売新聞』1896.8.10.17 付録 p.1
- 19 前掲、注11「標本から美術へ 十九世紀の日本美術品蒐集、特にアンダーソン・コレクションの意義について」p.36
- 20『目の眼』(508)2019.1 目の眼 p.26<請求記号 Z11-885>
- 21 前掲、注13「19世紀末における〈日本美術史〉資料収集のネットワーク ウィリアム・アンダーソン旧蔵和漢籍を中心に」p.226
- 22 前掲、注13「19世紀末における〈日本美術史〉資料収集のネットワーク ウィリアム・アンダーソン旧蔵和漢籍を中心に」pp.226-227
- 23 William Anderson, "Kakke" *Transactions of the Asiatic Society of Japan*. 6(1), 1878, 1964, p.155<請求記号 Z52-B254>
- 24 (1849-1920)。海軍軍医。日本最初の医学博士の1人。東京慈恵会医科大学の前身の成医会講習所を創立。現在では脚気はビタミンB1欠乏症であることが広く知られているが、ビタミンの概念がない時代にビタミンの存在を示したという点において「ビタミンの父」とも呼ばれる。
- 25 平山郁夫、小林忠 編著・監修『秘蔵日本美術大観3(大英博物館3)』講談社 1993 pp.276-277<請求記号 YP11-245>
- 26 松居竜五 [ほか] 著『達人たちの大英博物館』講談社 1996 p.138<請求記号 UA31-G26>
- 27 押川曠 編、乾信一郎 訳『シャーロック・ホームズのライヴァルたち2』早川書房 1983<請求記号 KS141-98>
- 28 Arthur Morrison, Milward Kennedy, Barry Pain, E.Bland [著] 西川正身 編著『ストーリーズ・オヴ・デテクション』開隆堂書店 1935 p.i<請求記号 Y994-J10577>; アーサー・モリスン 著、平山雄一 訳『マーチン・ヒュイット 完全版』作品社 2021 pp.594-605<請求記号 KS179-M1140>
- 29 アーサー・モリスン 著、井上一夫 訳『マーチン・ヒュイットの事件簿』東京創元社 1978 p.353<請求記号 KS164-169>
- 30 前掲、注26『達人たちの大英博物館』p.164, pp.166-168
- 31 平山郁夫、小林忠 編著・監修『秘蔵日本美術大観2(大英博物館2)』講談社 1992 p.16<請求記号 YP11-245>
- 32 前掲、注26『達人たちの大英博物館』p.174
- 33 平山郁夫、小林忠 編著・監修『秘蔵日本美術大観1(大英博物館1)』講談社 1992 p.11<請求記号 YP11-245>
- 34 山格格蔵 著『日本の浮世絵師』第一書房 昭和5 p.5<請求記号 Z71.8-Y33ウ>
- 35 前掲、注5「バーリントン・ファイン・アーツ・クラブとジャポニスム 19世紀末イギリスにおける浮世絵版画受容についての一考察」pp.47-48
- 36 前掲、注26『達人たちの大英博物館』p.165
- 37 前掲、注26『達人たちの大英博物館』p.176
- 38『大英博物館秘蔵「江戸美術展」』東京都 1990<請求記号 K16-E270>

○肖像の典拠

ウィリアム・アンダーソン：杉子女王「標本から美術へ 十九世紀の日本美術品蒐集、特にアンダーソン・コレクションの意義について」『國華』114(7)(1360) 2009.2<請求記号 Z11-165>

アーネスト・サトウ：維新史料編纂事務局 訳編『英使サトウ滞日見聞記 維新日本外交秘録』維新史料編纂事務局 1938 <https://d.nld.go.jp/info:ndljp/pid/1921021/8>

アーサー・モリスン：『英語青年』26(10)(377) 研究社 1912.2<請求記号 Z12-55>

下村観山：電子展示会「近代日本人の肖像」<https://www.ndl.go.jp/portrait/datas/279.html>

平田秀木：『現代日本文学全集 第97(文学的回想集)』筑摩書房 1958<請求記号 918.6-G295-t>

※ URL の最終アクセス日：令和4年1月7日

国立国会図書館で働いています

Season2

no.6

インフォメーションに聞かなくてもスムーズに利用してもらえたら、それが理想です



サービス運営課総合案内係でどんなお仕事をされていますか。

新館と本館のインフォメーションカウンターで利用者の方に対応するのがメインの仕事です。所蔵調査や簡易なレファレンスまで、いろいろな問い合わせに答えています。

検索の支援をすることもありますか？

はい。国立国会図書館（NDL）はほかの公共図書館と違って閉架式のため、資料を端末で検索するだけでなく、閲覧の申込をしたり、複写申込書も端末で作成するので、操作の支援をすることが多いです。デジタルのプリントアウト枚数が多かったりすると長時間の対応になることもあります。

そのうえ簡易なレファレンスもするなんて、幅広いですね。

本当に多岐にわたっています。簡単な「トイレはどこですか」から、「〇〇の市場動向が知りたい」まで。利用者の方が知りたい、調べたいテーマに応じて、適切な専門室に振り分け

たり、データベースを紹介したりしています。

何人体制で、週にどのくらい入るんですか？

カウンターは基本は二人体制で、案内が長時間になりそうだなと思ったら、事務室にヘルプを要請するという形で。週2ぐらいで当番が回ってきますが、結局事務室にいてもヘルプで呼ばれることが多々あるので、今週は毎日出ていたな、ということも。

ある意味、館内利用のすべてを知っているのでは？

ここに異動するときに「利用方法について何でもわかるようになるよ」という励ましを受けました（笑）。

利用者の方に一番近い仕事ですかね？

そうですね。天気が良かったり、休館日の前後は来館者数が増えるなど、この肌を感じますし、まさに利用者サービスの最前線ですね。ほかには、館内の掲示物や、利用案

内冊子、開館日カレンダーを作成したり、利用ガイダンスを行ったりしています。障害のある方の利用支援もしています。

最前線で大変だと思うのですが、やりがいはいは？

月並みなんですけど、ちょっとした検索の仕方を変えたりするだけで、お探しの資料が見つかった時はこちらもうれしくて。その場では見つけられなくても、あとで見つかった時は走って追っかけたりして、利用者の方も驚いて「ありがとうございませす！」とやりとりしたり。帰り際にカウンターに立ち寄って「ご親切にありがとうございました」と言われたこともありました。資料と人をつなぐかけ橋としての役割を果たせた

山田 真理

利用者サービス部 サービス運営課 総合案内係

平成21（2009）年4月

主題情報部 人文課 人文第一係

平成24（2012）年1月

利用者サービス部 サービス運営課 総合案内係

(1) 国立国会図書館デジタルコレクション

<https://dl.ndl.go.jp/>

な、と実感します。

自分でも知識がどんどん増えていく感じがありますか？

幅広い知識の蓄積に努めています。でもシステムもどんどん変わりますし、データベースも日々増えていくので、追いつくのが大変です。

係創設時からいらっしゃるのは山田さんだけですか？

もはや私だけになりました(笑)。以前は、図書カウンター横と雑誌カウンター横にそれぞれカウンターがあつて、図書のカウンターなら図書中心の案内をしていました。平成23(2011)年10月に組織改編でサービス運営課が誕生し、平成24(2012)年1月に総合的なインフォメーションにすることになって、当時の図書、雑誌の職員を中心に10人くらいが集まって新しい係がスタートしました。同時に館内システムもリニューアルして、端末一台で資料の検索・申込からデジタル情報の閲覧まで様々な機能が利用可能になりました。最初はシステムダウンが起きたり、マニュアルもまだ整っておらず混乱することも多かつ

たです。伊東さんのインタビュー^②もありましたが、その時のメンバーは戦友です。

一つの端末でなんでもできるのは画期的でしたが、苦労があつたんですね。

その後、サービスが少しずつ変わりましたし、係の体制もそれに合わせてどんどん変わっていきました。

そんな中で事例を蓄積して、試行錯誤しながら一つずつマニュアルを整えていったんです。今、到着確認用

端末の上にある「到着確認用」という表示も、一目で用途がわかるように、設計図を書いて、厚紙をハサミで切つて、一から手作りしてみんなで付けて、水分補給が可能なエリア

などの閲覧環境の整備についても、どのエリアにするか考えるところから始まりました。そこから、飲料は透明袋に入れてくださいという掲示物やチラシを作成したり、巡回して

お願いしたり。「何百年先もより良い状態で資料を提供できるように」という思いで取り組んできました。

利用案内冊子には「一番これ、二番これ」と手順が書いてあつて、直感的にすぐわかりやすいです。

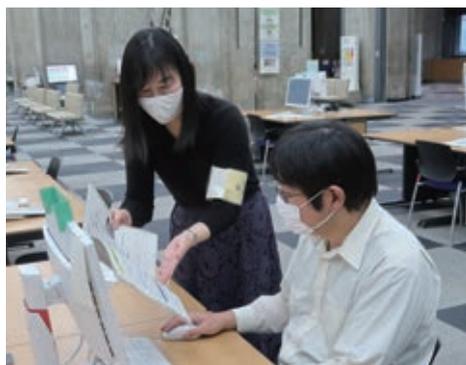
ありがとうございます！この冊子に力を入れていて、全部の端末の前に置いてあります。いかに伝わるかデザインや文章を検討して、どんなブラッシュアップしてます。それから、利用案内の動画も作成してHPに載せています。インフォメーションに聞かなくてもスムーズに利用してもらえたら、それが理想だと思っています。

接遇時に心がけていることなどありますか？

利用者の方は老若男女さまざまですし、目的もいろいろなので、瞬時に判断が求められます。初めての方もいれば、慣れている方からの難解な質問もあつて。ゆっくり一から説明してほしい、何なら代わりにやってほしいという方もいれば、答えだけ

をパッと出してほしい方もいて、見極める必要がありますね。それと、カウンターの中であまり時間をかけすぎない、質問の意図を汲み取って主題に応じた専門室を案内する、という原則はあるけど、もう少し調べたら答えが出そうなきもあつたりする。どこまでをここで回答するかという塩梅が難しいです。複数の主題にまたがる質問だったり、思いもよらない質問だったり、一筋縄ではないケースも多く、判断に迷うことも多いです。

あと、基本的な利用の流れは、こちら側としては何度も説明しているおなじみの内容ですが、聞く人にとつては初めてのことかもしれないから、それを心に留めて丁寧に説明しなければいけないと思つています。



(上) 端末ごとに置いてある冊子や利用案内パンフレット。
(下) 検索支援の様子(利用者役は係長)。

(2) 本誌2021年12月号

なるほど、実地で日々いろんな方と接しているからこそ心がけですね。

人文課人文第一係ではどんなお仕事をされていますか？

地理や歴史、芸術、文学に関するレファレンス業務と、人文総合情報資料室の開架資料の選書などです。難しい質問や、回答が見つからない場合もあって、特に新人で入ったので、右も左もわからず戸惑うこともありましたが、先輩の話を聞いているだけで知見が広がるような日々でした。経験を積んでいつかまた行ってみたいです。

大学院では英文学を専攻されて、ジェイン・オースティンを研究されていたとか。

18世紀から19世紀あたりのイギリスの中流階級の女性の結婚や家族のありかたを、時に皮肉交じりに、でもユーモアと愛情も込めながら淡々と書いてるのが面白いなと思い、修士論文で扱いました。

どうして英文学に興味をお持ちになったんですか？

昔から児童文学を読んだりしていて

イギリスという国がすごく好きでした。歴史的建造物や、受け継いできたものが素敵で。英国図書館に足を運んでみたり。それで、多くの作品に触れるようになりました。もともとシャーロック・ホームズも好きで、ちなみに推理小説は日本のものも好きで、中高生の頃は学校の近くに古本屋があって、そこに毎日通い詰めてました。

なんて素敵な中学生！それで図書館に入ろうと？

はい。こを受けようと思ったのは、英文学を研究していたのもあって、調べることが好きだったのと、資料を残して受け継いでいくという点に魅力を感じて。今時、パツパツと何でも捨てがちな中で、大切に後世に残すというのが自分の価値観に合っていると思いました。あと女性が働きやすそうだなと思いました。(職員員の男女の割合が)ほぼ一対一です、と聞いたので。

それは強みですよ。お子さんは3人いらっしゃるのか。子育てと仕事の両立はいかがですか。

3回、産休と育休をいただきました

た。2人目の時つわりがひどくて入院して、情けないような思いをしていたんです。同じ係の先輩が「働くのは戻ってから、今はゆっくり休んでね」とメールをくださって、すごく救われて。今も周りのメンバーにすごくサポートしてもらって、感謝しています。

家の中では、一番上が小学生で、下が赤ちゃんに毛の生えたような2歳児で、けっこう年齢差があるので、それぞれの悩みのレベルとも違って。上の子の宿題を見ているときに、下の子が「自分も！」って突撃してきたり、牛乳ぶちまけたり。どたばたにぎやかに暮らしています。

相手のニーズがそれぞれであるっていうのは、職場と家と似てないですか？(笑)

ほんとですね！絵本は毎日読んでるので、子どもたちはみんな本好きになりそうです。

いいですね！今後、NDLはどうあるべき、またどうなっていっていいと思いますか。

来館サービスばかりに携わってきたので見失いがちなんですけど、先輩に言われて印象的だったのが「東京本館で来館サービスを直接受けられる人はごく一部」って。もちろん目の前の利用者の方に対して真摯に接することもすごく大事なんですけど、そこからさらに、来館でよく聞かれる事例、質問を蓄積して、それを「調べ方案内」のようなツールに発展させたりして、専門性、正確な情報を広く発信する存在になっていけたら。長く受け継いできた国民共有の文化的資産や知識といったNDLにしかないものを、すべての方に届けることができたらいなと考えています。



英国図書館の本型のベンチにて

本屋に

ない

本



知らない地球がここにある 神奈川県立生命の星・地球 博物館紹介映像

神奈川県立生命の星・地球博物館 企画・
製作 2013.2 ビデオディスク1枚(38
分) : DVD<請求記号 YL321-L2475>

※画像提供：神奈川県立生命の星・地球
博物館

国内出版物として国立国会図書館が

所蔵している資料は冊子の本だけにと
どまりません。各地の郷土行事の記録、
医療関係の手法の講義ビデオなど、普
段目にしないような映像も、DVDや
ビデオカセットとして刊行されれば当
館の収集対象となります。

ご紹介する博物館の紹介映像もその
一つです。「神奈川県立生命の星・地球
博物館」は1995年の開館以来、自
然史博物館として地球の誕生から現在
までの幅広い資料を収蔵し、調査・研
究、教育支援を行ってきました。多様
な生物が生息する相模湾に関する展示
など、地域に根差した展示も行ってい
ます。DVDは常設展の紹介(子供向け・
大人向け)と、「潜入！ 博物館の舞台

裏」の2本立てとなっています。

常設展は地球、生命、神奈川の自然、
自然との共生という4つのテーマに分
かれており、触って体感できるアンモ
ナイトの化石や巨大な板根を持つ木、
神奈川の陸海に生息する生物について
など、DVDでは様々な見どころが迫
力ある映像で紹介されています。

さらにDVDを特徴づけているのは
後半のバックヤード見学です。常設展
や特別展に展示するはく製はただそこ
にあるものではありません。収集し、
保管しているからこそ研究や教育活動
に使うことができます。保管に利用す
るのは収蔵庫内、天井ほどまである大
きな移動棚。棚にあるのはクマやカモ
シカなど50万点以上の動物のはく製標

本です。はく製の他にも、カニの標本
が中心の酒井コレクション、サメの歯
を集めたケースコレクション、鉱物や
地層の標本、新種発表の際に学名の基
準となるタイプ標本などの標本が保管
されています。

保管の前段階、標本作成の様子もD
VDで見ることが出来ます。例えば魚
はホルマリン液に浸ける液浸標本にし
ますが、時間がたつと変色するため、
ひれや筋肉を固定したのち写真撮影を
行います。期間を区切って行う特別展
である大トンボ展の開催準備を追う
パートでは、標本作成のさらに前、「ま
ずは、野外で展示用の資料を集めます」
というナレーションとともに、虫取り
網を持って草むらでトンボを捕まえる

映像が流れます。国内外の他機関から
集めた標本も合わせて、アジアでも有
数という大規模な展示を作るところは
圧巻です。

こうして見ると、やはり生き物につ
いて扱う博物館は図書館より大変そう
だな、と思われるでしょうか？ もち
ろん図書館員は森で本を捕まえること
はありませんが、受け入れた資料の整
備、収蔵庫での保管、画像を撮影して
の保存など、映像から様子がよくわか
る分、博物館と図書館とで重なる業務
が多くあることに気づきます。コロナ
禍の休館中も変わらず全国の博物館で
続けられた地道な舞台裏の作業に思い
を馳せることができました。

(後藤茉莉)

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。
このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

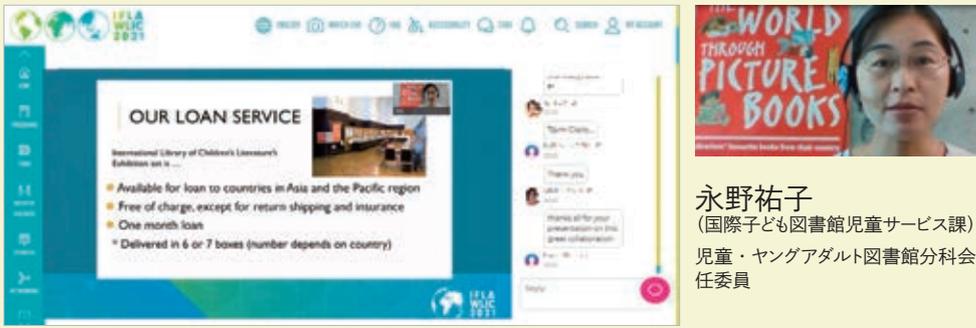
let's work together for the future

IFLA 年次大会

令和 3 (2021) 年 8 月 17 日 (火) ~ 19 日 (木) オンライン開催

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和 2 (2020) 年は IFLA (国際図書館連盟) の年次大会が中止されました。令和 3 (2021) 年も集合して開催することは困難と判断され、全てのプログラムをオンラインで開催することとなりました。125 か国から 2,750 名以上が参加し、国立国会図書館も、オンラインであるため例年より多い 37 名が参加することができました。参加した職員の声をお届けします。

児童・ヤングアダルト図書館分科会で発表して



永野祐子
(国際子ども図書館児童サービス課)
児童・ヤングアダルト図書館分科会常任委員

今大会のタイミングで、児童・ヤングアダルト図書館分科会の常任委員になりました。当分科会のセッションでは、インターネットの安全な利用に関するアンケート調査、コロナ禍での児童サービス継続・向上のための取組み、図書館員が絵本を選ぶプログラム「絵本で知る世界の国々」の 3 つのテーマで報告が行われ、私は、国際子ども図書館が行っている「絵本で知る世界の国々」展示会用セットの貸出しについて紹介しました。

当日、事前録画したプレゼン動画が流れるのをパソコンの前で見ていると、感想や意見が次々とチャット欄にのり、世界の児童サービス関係者が「今」見てくれていることに励まされました。また、Zoom での質疑応答では、オンラインおはなし会と著作権の話題に関心が集まり、いろいろな国での対処法が紹介されました。世界中を覆う制約の中で、今までになかった形での大会が実現し、国を超えて関心を共有する人々が集えたことをありがたく感じました。

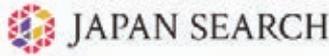
- 各図書館が取り組んでいる課題が、国際的な目標である SDGs の文脈に位置付けられて議論されていた点が印象的でした。環境問題、人権問題等が国際的に重要度を増す中、図書館にとっても、国際的な目標や潮流を意識することが必要であると感じました。
- コロナ禍の影響で、各図書館とも、資料のデジタル化やオンラインサービス化などを加速させていました。また、図書館がコロナ禍において、それぞれのコミュニティにとって不可欠な存在であることを紹介する報告が多く、深い示唆を得ました。
- 従来の IFLA 年次大会では、各国からの参加者とのリアルな討論、交流や、開催国の図書館訪問もあり、この点については、オンライン大会では代替できないことを痛感しました。

セッションに参加して

なお、年次大会の開催方法については、令和 2 (2020) 年 11 月の IFLA 総会において、スウェーデン図書館協会とノルウェー図書館協会のメンバーから動議が提出されました。今後の年次大会を従来の開催方法の代替となる持続可能なやり方で開催することを検討し、リアルなイベントとしては開催頻度を 3 年に 1 度に変更する、という提案です。これは、従来の大会が、遠方からの参加者の航空移動により大量の二酸化炭素の排出を引き起こしていること、また、高額な旅費のために多くの図書館員が参加出来ないことといった現状をふまえています。採決の結果、賛成が多数を占めたため、IFLA 理事会はこの提案を受けて、今後の開催方法を検討することとしています。令和 4 (2022) 年はダブリン (アイルランド) で開催予定です。



日本のデジタルアーカイブを横断検索



コンテンツもひとつ
つながります



私が所属する電子情報企画課連携協力係は、主にジャパンサーチの連携業務を担当しています。ジャパンサーチとは、図書館や公文書館、博物館、美術館など様々な機関と連携し、デジタルアーカイブの多様なコンテンツをまとめて検索・閲覧・活用できるプラットフォームです。

ジャパンサーチは国全体の取組で、国立国会図書館はシステム運用と連携調整が担当です。連携協力係は国立国会図書館の窓口として、内閣府と連携してジャパンサーチを運営する委員会のお手伝いをしています。また、ジャパンサーチの連携機関と登録データについて打ち合わせたり、アーカイブ機関に連携の働きかけを行ったりしています。やり取りする相手は、行政省庁や博物館・美術館、公文書館や自治体など幅広く、自分が図書館員なのか、時々不思議な気分になります。連携協力係はこのほかに、ジャパンサーチ関連のイベントの開催や広報、ギャラリ（電子展覧会）の作成などもこなす、いわば何でも屋さん。係の3名でこれらの業務を並行して行うため、1年中がてんやわんやの繁忙期です。ジャパンサーチ正式版が公開された2020年8月は、新型コロナウイルスの感染が拡大した時

期と重なります。国立国会図書館が2020年春に来館サービスを休止したときは、本来なら多くの来館者で賑わう利用者スペースが静まり返っていてショックを受けました。連携機関の苦しい状況を聞くにつけ、国内のデジタルアーカイブをつないで国民の情報アクセスを支えたい、連携機関のお役に立ちたい、との思いが強くなります。

コロナ禍で業務のデジタルシフトも進みました。オンラインならイベントに海外から参加いただいたり、遠方の連携機関ともすぐに打合せができたりする一方で、意思がうまく伝わらず歯がゆい思いをすることもしばしばです。まだまだ試行錯誤の連続ですが、連携機関が集う意見交換会をオンラインで実施したところ、参加者から「他分野のデジタルアーカイブに携わる人たちと意見を交わす機会がこれまでなかったので、こんなコミュニケーションの場がほしかった!」と言ってもらったことは、大変励みになりました。日本中のデジタルアーカイブをつなぎ、コンテンツをつなぎ、そしてひとを（リアルでも）つなぎたい。それがジャパンサーチの中の人の願いです。（電子情報企画課連携協力係 アナログな中の人）

令和4年度国立国会図書館職員採用試験

令和4年度の職員採用試験を次のとおり実施します。

試験の概要

(詳細は試験案内またはホームページをご確認ください。)

種類	受験資格※	受付期間	第1次試験日	会場
総合職試験	S63.4.2～H14.4.1生	R4.3.28 (月) ～4.14 (木)	R4.5.21 (土)	第1次試験は東京及び京都。第2次試験及び第3次試験は東京
一般職試験 (大卒程度試験)				
施設設備専門職員採用試験 (大卒程度試験)				
障害者 (係員級) 採用試験 (大卒程度試験)	S58.4.2～H14.4.1生 障害者手帳等所持		R4.6.18 (土)	東京

※H14.4.2以降に生まれた方でも、総合職試験は大学卒又はR5.3までに卒業見込、それ以外の試験は大学・短大・高専卒又はR5.3までに卒業見込であれば受験可能です。

※日本の国籍をお持ちでない方、国会職員法第2条の規定により国会職員となることができない方、平成11年改正前の民法の規定による準禁治産の宣告を受けている方(心神耗弱を原因とするもの以外)は受験できません。

※申し込むことができる試験の種類は、1つのみです。(総合職試験には一般職試験(大卒程度試験)と併願できる総合職特別制度があります。)

○職務内容

●総合職試験・一般職試験(大卒程度試験)・障害者(係員級)採用試験(大卒程度試験)
調査業務 司書業務、一般事務等の館務

●施設設備専門職員採用試験(大卒程度試験)
施設設備の維持及び管理等に関する業務、設備新営・

改修工事に関する設計・監理業務、設備に関する技術に係る調査研究業務並びに当該専門的知識を必要とする業務

○障害のある方へ

受験資格を満たせば、障害者(係員級)採用試験(大卒程度試験)、総合職試験、一般職試験(大卒程度試験)、施設設備専門職員採用試験(大卒程度試験)のいずれか一つを受験することが可能です。

障害者(係員級)採用試験(大卒程度試験)以外の試験を受験する場合も、受験上の配慮を行います。

○試験案内及び受験申込書の入手方法

次のいずれかの方法で入手可能です。

- ・東京本館、関西館又は国際子ども図書館に来館
- ・郵便で請求

・国立国会図書館ホームページからダウンロード
郵便での請求方法やダウンロード方法は、国立国会図書館ホームページの採用情報のページを参照してください。

<https://www.ndl.go.jp/employ/index.html>

○問合せ・資料請求先

総務部 人事課 任用係

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1

電話 03(3506)3315 (直通)

FAX 03(3581)1758



採用案内パンフレット2022表紙・裏表紙

NDL Topics

「国立国会図書館ビジョン2021・2025
「国立国会図書館デジタルシフト」がJEP
A電子出版アワード2021（第15回）デジ
タル・インフラ賞及び大賞を受賞

令和3年12月22日（水）に、日本電子出版協会（J
EPA）による電子出版アワード2021（第15回）
授与式がオンラインで開催され、「国立国会図書館ビ
ジョン2021・2025」がデジタル・インフラ
賞及び大賞を受賞しました。

デジタル・インフラ賞は五つあるジャンル賞の一つ
で、電子出版市場における基盤として大きな役割を果
たした又は果たすことが期待されるインフラサービス
に授与されます。「国立国会図書館ビジョン2021
・2025」は、資料のデジタル化の加速、テキスト化、
機械学習にも活用できる基盤データの整備を目指して
いることなどから、日本の知のデータベースを構築す
る活動として評価されました。

さらに授与式当日に、ジャンル賞の中から、JEP
A会員社の投票によって「国立国会図書館ビジョン
2021・2025」が大賞に選出されました。



授与式にオンラインで出席する様子

国際子ども図書館展示会

「上野の森をこえて図書館へ行こう！世紀を
こえる煉瓦の棟」

国際子ども図書館は、明治期に帝国図書館として創
建された建物を、当時の内外装の意匠と構造を保存・
復元しながら、新たな改修や増築をほどこして平成12
年に開館しました。この展示会では、東京都の歴史的
建造物に選定されている国際子ども図書館のレンガ棟
を中心に、建築意匠や建物の歴史を紹介します。普段
は撮影禁止の会場内を自由に撮影することができます。

時代をこえて愛される煉瓦造りの棟の歴史からも、
国際子ども図書館の魅力を感じ取ってみてください。

○開催期間 3月22日（火）～5月22日（日）

※月曜日、国民の祝日・休日（5月5日のこどもの
日は開館）、毎月第3水曜日（資料整理休館日）

は休館

※開催予定が変更になる場合があります。最新情報
については、国際子ども図書館ホームページなど
でご確認ください。

○開催時間 9時30分～17時

○会場 国際子ども図書館レンガ棟3階本のミュー
ジウム

○問合せ先 国際子ども図書館資料情報課 展示係
電話 03（3827）2053（代表）



#26 国際子ども図書館 本のミュージアム
より「エディキュール」



展示会「上野の森をこえて図書館へ行こう！世紀をこえる煉瓦の棟」ちらし



NDL Topics

新刊案内

レファレンス 853号

令和4年の年頭のご挨拶

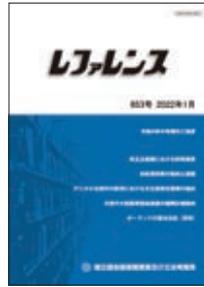
民主主義国における財政錯覚―有権者による税負担等の過小評価と財政支出拡大との関係―

自転車政策の動向と課題

デジタル化時代の欧州における文化芸術支援策の動向

次世代大型衝突型加速器の国際計画動向―ヒッグスファクトリー実現へ向けて―

ポーランドの憲法法廷（資料）



A4 138頁 月刊 1,100円（税込）
発売 日本図書館協会

入手のお問い合わせ
日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電話 03(3523)0812

新副館長就任

田中久徳国立国会図書館副館長が令和3年12月31日付けで退任し、令和4年1月1日付けで片山信子が副館長に任命されました。



片山信子副館長

おもな人事

△退職▽

令和3年12月31日付け

副館長

田中 久徳

△退職（出向）▽

令和3年12月31日付け

専門調査員 調査及び立法考査局農林環境調査室主任

梶原 武

△異動▽※（ ）内は前職

令和4年1月1日付け

副館長、総務部長事務取扱（総務部長）

片山 信子

専門調査員 調査及び立法考査局農林環境調査室主任

（衆議院常任委員会専門員 農林水産委員会専門員）

森田 倫子

令和3年度東日本大震災アーカイブシンポジウム「震災記録を残す、伝える、活かす」を開催しました

令和4年1月10日、東北大学災害科学国際研究所多目的ホールの会場およびオンラインにて、東日本大震災アーカイブシンポジウムを開催しました。本シンポジウムは、国立国会図書館と東北大学災害科学国際研究所との共催により、毎年1月に開催しているものです。

今年度は、震災記録の保存・利活用に向けた草の根の取組として、3・11オモイデアーカイブ、3・11メモリアルネットワークの事例が、アーカイブ構築・活用の取組として、2014年神城断層地震震災アーカイブ、災害アーカイブぎふの事例が報告されました。また、国立国会図書館および東北大学災害科学国際研究所から事業の進捗報告が行われました。

続くパネルディスカッションでは登壇者全員が参加し、各団体における震災記録の活用に向けた取組や、震災記憶の伝承活動、それらの取組の課題、今後の展開、他団体への要望等について意見交換が行われ、活動の持続可能性等について議論されました。



国立国会図書館からの報告



パネルディスカッション

シンポジウムの詳細は以下に掲載しています。
<https://kn.ndl.go.jp/static/2021/11/041>

NDL Topics

令和3年度国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会

令和3年12月8日、標記懇談会が開催されました。この懇談会は、国立国会図書館が、国公立大学図書館協力委員会委員館の図書館長及び関係機関の代表者を招いて毎年行っているものです。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から実施しませんでした。今回、オンライン形式により2年ぶりに行いました。

初めに、当館から大場利康電子情報部長が、「国立国会図書館のデジタルシフト―資料デジタル化を中心に―」と題し、当館ビジョン及び資料「デジタル化について、学協会誌のデジタル化に関する取組を中心に、概要を紹介しました。次に、大学図書館2館から報告がありました。久保田壮活東京大学附属図書館総務課長からは、「国立大学図書館のデジタル化への対応」国立大学図書館協会「ビジョン2025」の概要」と題し、ビジョンの概要、国立大学図書館の資料「デジタル化の現状、東京大学学術資産等アーカイブズポータル等の紹介がありました。須田伸一慶應義塾大学メディアセンター所長からは、「慶應義塾大学メディアセンターにおける資料のデジタル化」と題し、同センターのデジタル化プロジェクトの歴史、他機関への画像提供等について報告がありました。

その後行われた意見交換では、冒頭でローリーゲイ早稲田大学図書館長から、同館所蔵古典籍資料のデジタル化及びデータベース化について紹介がありました。続いて、出席の大学図書館長から、学協会誌のデジタル化の進め方、図書館等公衆送信サービスに関する

補償金の仕組み、デジタル化資料をオープンデータとして公開するための工夫、デジタル化のための人材の確保・育成について、質問や意見がありました。



令和3年度国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会（肩書は開催当時のもの）

韓国国会図書館、韓国国会立法調査処との業務交流（第11回）

令和3年12月20日に韓国国会図書館（NAL）、韓国国会立法調査処（NARS）との共同セミナー方式による業務交流を、オンライン形式で行いました。NALとのセッションでは、新型コロナウイルス感染症関連を含む、海外立法情報提供に関する両館の業務体制等について報告と質疑応答が行われました。NALからは、日本法に特化した自動翻訳システムの開発についても紹介がありました。NARSとのセッションでは、日韓両国のデジタル・ガバメントに関する主な関係法律や施策のほか、今後の課題について報告と質疑応答が行われました。その後、国際的な観点から、参考となり得るデジタル・ガバメントの先進事例についての意見交換もなされました。

『国立国会図書館月報』令和4年刊行予定

令和4年は、左記の号を合併号として刊行する予定です。

- ・ 735／736号（令和4年7／8月）
- ・ 737／738号（令和4年9／10月）



★展示会★

上野の森をこえて図書館へ行こう！

世紀をこえる レンガ 煉瓦の棟

Let's go through Ueno Forest to the library!
A brick building over 100 years old



撮影OK!

2022年

入場
無料

3月22日(火) ~ 5月22日(日)

開催予定が変更になる場合があります。最新情報については、公式ホームページなどでご確認ください。

【会場】 国際子ども図書館 レンガ棟3階 本のミュージアム

【開館時間】 9時30分 ~ 17時 【休館日】 毎週月曜日、国民の祝日・休日（5月5日の子どもの日は開館）、
毎月第3水曜日（資料整理休館日）

3

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2022.3

NO.731
MARCH
2022

CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections>
Shokoshi—A deep love for and indebtedness to children
- 05 Travel writing on Japanese libraries
Tokyo Metropolitan Central Library
- 10 Strolling in the forest of books (28)
Two Englishmen fascinated by Japanese art
- 18 Working at the NDL, Season 2 Episode 6
- 22 World Library and Information Congress 2021: IFLA General Conference
- 21 <Books not commercially available>
Shiranai chikyu ga koko ni aru
- 23 <Tidbits of information on NDL>
Linking content and people
- 24 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

令和4年3月号 (No.731)

令和4年3月1日発行

発行所 国立国会図書館
編集者 松浦 茂
責任者

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
FAX 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp
<https://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<https://www.ndl.go.jp/>) >刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2 0 2 2 . 3

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

図

国

国

書

人

六